

---

■■■■ ■ ■■■■ 利用教育委員会通信  
■ ■ ■■■ 日本図書館協会図書館利用教育委員会  
■■■■ ■■■■ ■■■■ JLA The Committee of User Education

---

- ・「〈CUE〉利用教育委員会通信」は日本図書館協会図書館利用教育委員会  
がニュースをお伝えするメールマガジンです。
- ・〈CUE〉は **Committee of User Education** の頭文字です。英語の「cue」  
はスタートの合図の意。利用教育の普及への願いを込めた誌名です。
- ・本誌は等幅フォントでご覧ください。
- ・利用教育関連の情報をお寄せください。本誌へのご意見やご要望もお待ち  
しています。 [cue@jla.or.jp](mailto:cue@jla.or.jp)

---

□ 目次

- (1) 第103回全国図書館大会 東京大会 (第19分科会 利用教育)のご案内
- (2) 編集後記
- (3) 図書館利用教育委員会委員

- 
- (1) 第103回全国図書館大会 東京大会 (第19分科会 利用教育)のご案内

館種を越えた情報リテラシー教育の枠組みづくりに向けて  
—実践を支える理論を求めて—

当委員会が企画・運営する第19分科会では、今回、情報リテラシー教育をめぐ  
る「理論」をわかりやすく学べる機会を準備しました。若手研究者による最新動  
向を含めた教育科学に基づく講演は必聴です。また、館種を越えたデータベース  
指導の経験を語っていただく講演も必聴です。どなたでもご参加いただけます。  
当日受付が可能ですので、ぜひともお越しください。

○日時：2017年10月13日(金) 9:00-12:00

○会場：国立オリンピック記念青少年総合センター センター棟5階513号室  
<http://nyc.niye.go.jp/category/facilities/>

○主旨：

館種を越えた情報リテラシー教育の枠組みづくりに向けて、実践や理論の動向を見据えながら、検討を進めていきます。教育科学の知見や実践事例に基づく講演を踏まえて、ワークショップを通して参加者の皆さんとともに、館種を越えた「学び」の在り方を考えていきます。

○プログラム：

- ・講演(1)「教育方法論からみた情報リテラシー教育の現状と課題 ―教員、カリキュラム、そして大学図書館の包括的融合モデルを目指して―」  
井田浩之氏 (University College London Institute of Education)
- ・講演(2)「情報リテラシー講習会から視える課題 ―大学や公立図書館における経験から― (仮題)」  
桑原博文氏 (株式会社ネットアドバンス)
- ・講演(3)「大学生の情報リテラシーの実態―習得傾向と図書館の寄与― (仮題)」  
飯尾健氏 (京都大学大学院教育学研究科)
- ・ミニワークショップ「館種を越えた「学び」と情報リテラシー：実践を支える理論を求めて (仮題)」  
JLA 図書館利用教育委員会委員

※プログラムは変更になる場合があります。

○分科会に関するお問合せ：

日本図書館協会図書館利用教育委員会 (cue@jla.or.jp)

○全国図書館大会ウェブサイト：[http://jla-conf.info/103th\\_tokyo/](http://jla-conf.info/103th_tokyo/)

- ・当日参加受付について

[http://jla-conf.info/103th\\_tokyo/index.php/news/archives/15](http://jla-conf.info/103th_tokyo/index.php/news/archives/15)

---

(2) 編集後記

第91号をお届けします。今号では、来週に開催される全国図書館大会のご案内を掲載しました。皆様のご参加をお待ちしております。 (春田)

---

(3) 図書館利用教育委員会委員

(委員長)

野末俊比古：青山学院大学教育人間科学部

(委員)

天野 由貴：梶山女学園大学

石川 敬史：十文字学園女子大学

春田 和男：東京家政大学人文学部

福田 博同：跡見学園女子大学文学部

(事務局)

久保木いづみ：日本図書館協会事務局

---

〈CUE〉利用教育委員会通信 第91号 (27巻2号)

2017.10.6 発行

・バックナンバー：<http://www.jla.or.jp/cue/>

・配信登録・変更・解除・お問い合わせ：[cue@jla.or.jp](mailto:cue@jla.or.jp)

※本誌は Gmail を使って発行していますが、日本図書館協会および当委員会、ならびに本誌の内容と Google とは関係がありません。

---